

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



3年目、誰もが笑顔で生活できるように

やすらぎの郷ヘルパーステーションを開所し、3度目の冬が来ます。『誰もが笑顔で生活できるよう、心かようやさしい介護がしたい。』という一心で設立しましたが、日々の活動に追われ、果たして思いは実現できているのか…？という疑問はしばし残ります。

おかげ様で現在約30名の利用者様を9名のヘルパーで訪問しています。しかし、現在のヘルパー体制では限界が見えてきました。そこで3年目を迎えるにあたっての目標は、「ヘルパー増員(仲間づくり)でパワーアップ！！」です。ヘルパーを増員することで、ひとりでも多くの利用者様を受け入れ、そして思いやりのある手厚い介護を提供できるよう頑張りたいと思っております。

菅野 三三子 <主任・サービス提供責任者>

みんなの広場



「我がやすらぎの郷いいの」 も夜間の介護サービスができ たらいいな

家内は、在宅介護を5年間経て、あの世に旅立ちました。要介護5と認定されたのは、発病後2年目頃と思います。介護は、すべてが一人では出来ませんでした。訪問入浴サービスを週2回、訪問ヘルパーさんは1日3回。最後の1年間は訪問看護師及び月2回の訪問診療など介護保険の適用サービスのすべてと特定疾患認定の国からの介護サービスを利用させていただきました。そうした中で思いました事は、介護サービスを担って下さるヘルパーさんの働きのありがたさです。特に夜間にサービスが出来る事業所が近くにあったことで助かりました。会員としては、孤独な介護者への力づけができたらと思いますが、さてどんなことを行えばよいかは暗中模索の状態です。

〈会員 古関 善一郎さん〉

ヘルパーさんの立派なコミュニケーションに感謝

兄は介護サービスを受けてから5ヶ月が経ちましたが、体の回復も良く食欲も十分です。毎日、朝昼夕の3回、1回30分の時間内で手早くおむつ交換や汚れ物の交換等々をして頂いています。

そこでヘルパーさんを困らせることが時々ありますが、少しも顔や言葉に出さないで兄とのコミュニケーションを図っています。私が「すみませんね」と言うと、これが私達の仕事なので気にしないでと言われますが、私としては申し訳ない気持ちでいっぱいです。

また、家には94歳の母がいますが「おかあさん」とやさしい言葉を掛けてその日の天気や何かの話をしてくれる思いやりは立派です。兄にも母にも上手にコミュニケーションをとっていただき感謝しています。

〈利用者家族 高根 史郎さん〉



生活支援ボランティア・
ホームヘルパー募集！

調理・清掃・草刈・傾聴等々のボランティアおよびホームヘルパーを募集しています。問い合わせは事務局まで



27年度上期の事業状況 (27年4月～9月)

訪問介護事業は、要支援者への支援が収入見込みの半分程度ですが訪問介護事業全体ではほぼ収入見込みのとおりに移しています。

居宅介護支援事業はほぼ収入見込みとおりに移しています。

支援活動事業は、除草作業や調理などが昨年同期を上回っています。



たくさんの方々に 支えられながら

昨年の6月にスタートした当事業所も、たくさんの方々に支えられながら1年半になろうとしています。

その方の生活をどれだけ一緒になって支えることができたかなと思いますが、今の自分にできることをやっといこうと頑張ってきました。

9月より一緒に頑張ってくれる仲間が出来るととてもワクワクしています。一緒に成長していきたいと思っています。

知識や経験もまだまだ浅い私たちですが、笑顔を忘れずに、気持ちに寄り添った支援が出来る様にたくさんの方を学んでいきたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。

〈主任・介護支援専門員
宇佐見 芳子〉

◎訪問介護事業 (単位:千円)

	収入	年間予算額
要介護者	8,273	15,300
要支援者	317	1,355
計	8,590	16,655

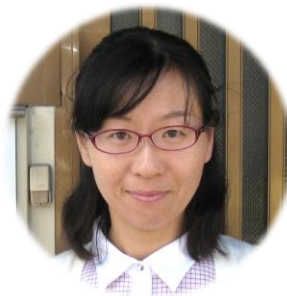
◎居宅介護支援事業 (単位:千円)

	収入	年間予算額
居宅支援	2,504	5,052
認定調査	103	193
計	2,607	5,245

◎支援活動事業 (単位:千円)

	収入	年間予算額
生活支援	242	271

はじめまして!



このたび介護支援専門員として勤務させていただくことになりました府野です。

不慣れではありますがご利用者様により添った支援が出来るよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

〈府野 陽子〉

●<連載その1>● 認知症のことをもっと知りましょう



認知症の人の数は、現在500万人といわれています。認知症はもはや他人事ではありません。認知症高齢者の一人暮らしや「認知介護」が社会的にクローズアップされています。

認知症の人が何を感じ、どんな状況であるかがわかれば、周囲の人の気持ちも変わり、認知症の人も穏やかになると言われています。

“知は力なり””認知症になっても安心して住み続けられるまちづくり”が実現できるように4回にわたって連載します。

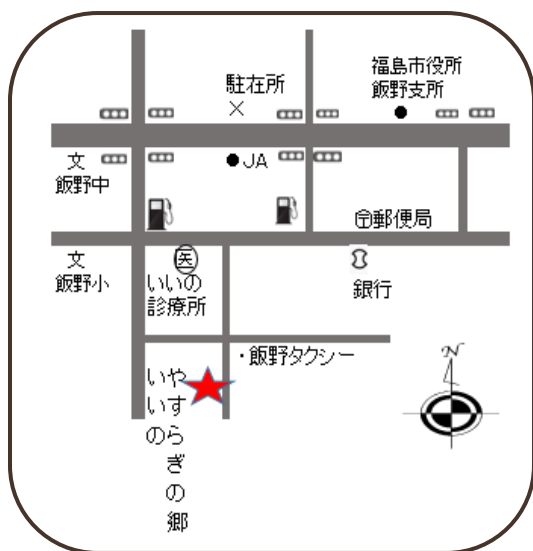
参考文献は、杉山孝博著「認知症の9大法則～こんなときどうしたらよい？」法研出版 1400円です。興味ある方は、一読をおすすめします。

杉山先生は、川崎幸列ニッポ病院長、(公益社団法人)認知症と家族の会全国副代表理事。この11月に福島市主催で講演をされます。

<認知症の9大法則・・・>

- 1 ごく最近の記憶から失われます。
- 2 症状は、身近な人に対してより強くでます。
- 3 自分にとって不利なことは認めない傾向にあります。
- 4 症状が進行しても、しっかりした部分は残っています。
- 5 出来事は忘れても感情は残ります。
- 6 一つのことに対してこだわりが強くなります。
- 7 強く対応すると、相手からも強い反応が返ってきます。
- 8 相手の立場にたてば、たいていのことは理解できます。
- 9 老化の速度がはやくなります。

熊田 吉弘 記



NPO やすらぎの郷いいの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一〇一言

秋祭りの10月も過ぎれば、そろそろ冬支度…この期間にホットな内容でお届けできる会報4号。嬉しいことです。「仲間づくりでパワーアップ」と菅野主任、会内外の合言葉にしたいものです。4月の介護報酬改定でとりわけ小規模施設閉鎖急増の全国ニュース!“介護の冬”はNOです。(S)